

第1回 燕市産業振興協議会 議事録

日 時：令和4年10月5日(水)
10時00分～11時45分
会 場：市役所3階 301会議室

参加者：田野委員(燕商工会議所 会頭)
星野委員(吉田商工会 会長)
高野委員(分水商工会 会長)
小林委員(日本金属洋食器工業組合 理事長)
池田委員(日本金属ハウスウェア工業組合 理事長)
志田委員(協同組合つばめ物流センター 理事長)
阿部委員代理 本間氏(燕商工会議所 工業部会 副部会長)
遠藤委員(燕商工会議所 小売商業部会 副部会長)
中島委員(分水商工会 副会長)
平原委員(分水商工会 商業部 副部会長)
塩井委員(第四北越銀行 コンサルティング事業部県央西ブロック
上級コンサルタント)
池内委員(協栄信用組合 理事長)
杉本委員(巻公共職業安定所 所長)
佐藤委員(公益財団法人燕三条地場産業振興センター 専務理事)

事務局：産業振興部長 他

会議次第：

1. 開 会

2. 会長あいさつ 燕市長 鈴木力

3. 議 題

(1) 燕市の今年度新規・拡充事業の申請状況について(報告)

燕市産業振興部商工振興課より令和4年度新規・拡充事業の申請状況について報告があった。

(2) 各業界における景況について (3) 求められる施策について

■産業団体

・原材料高、電気料金高、急激な円安の影響が大きい。電気料金については新

電力から東北電力に契約ができたとしても割高、契約期間の不安がある。

- 価格転嫁については、大部分はなかなか難しい状況。
- 価格転嫁を交渉する際に必要なのは、値上げを受けてもらえる付加価値のある製品や、付加価値のある仕事をするという、企業価値を上げていく努力が必要。
- トレードショウ、青空即売会では3年前の来場者数と同数ぐらいまで戻り、非常に盛況だった。県外からの来場も多かった。
- 人の動きが活発になってきているが、飲食業ではまだ影響が残っている。少人数の飲み会は増えてきているが、大人数の宴会や通夜振舞いのようなものはまだ少ない。業種によっては影響が大きい。また、飲食業も地域によっては戻ってきている地区、戻っていない地区の差がある。
- 人材、人手不足については、日本は急激に人口減少が進んできており、日本人の雇用は増えていかないのでは、早急に策が必要と考える。産業カレンダーの在り方も含めて、今後は多様な人材の活用を考えていかなければいけない。外国人材の活用も考える中で、セミナーや、外国人受け入れの体制づくりなど進めていってほしい。

■ハローワーク

- 求人は1年ほど前から人手不足感強く、コロナ前に戻ってきている。求職者は来所を控える人もまだまだ多く、求職者の減少幅は小さくなってきているが減少傾向で推移している。
- 若年層の労働者環境については各種事業で来春の高卒の就職支援を行っているが、少ないことは少ないが、やはり若年層の労働環境改善に取り組んでいる企業には学生が説明を聞きに行ったりしているので、その辺に何らかのヒントがあるのではないかと考えている。

■金融機関

- 景気動向では円安物価高が続いておりマイナスのインパクトが大きい。原油価格はこれ以上下がりにくい。ウクライナ侵攻の長期化で冬場に向けて天然ガスが高騰。
- 電気料金高については、なかなか特効薬はないが、地道なコスト削減を提案している。その中で省エネ最適化診断の補助のようなメニューがあると、企業のコスト削減とCO2削減の両輪の活動でSDGsの取り組みにつながる。
- コロナ収束後はカーボンニュートラルに取り組む地域が評価されるようになるので、市にはそのようなことに取り組む人、事業者によりインセンティブになるようなものを考えてほしい。

4. その他

5. 閉 会

参考資料 1	コスト高・電気料金高に関するアンケート調査結果 概要
参考資料 2	第 3 次燕市総合計画素案_商工業の活性化（抜粋）